

25年10月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 9月20日～ 10月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/10月	11月	12月
仕入 動向	国産材製材品	43.8	31.3	△ 18.8
	外材製材品	6.3	△ 6.3	△ 31.3
	構造用集成材	28.6	14.3	△ 21.4
消費 動向	国産材製材品	43.8	37.5	△ 6.3
	外材製材品	6.3	12.5	△ 18.8
	構造用集成材	28.6	28.6	△ 14.3
在庫 動向	国産材製材品	0.0	△ 18.8	△ 18.8
	外材製材品	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	構造用集成材	28.6	0.0	△ 35.7

プレカット加工用部材の仕入は、国産材製材品、構造用集成材は10、11月のプラスから12月はマイナスに、外材製材品は10月の小さなプラスから11、12月はマイナスに。
消費は、全品目とも10、11月のプラスから12月はマイナスに。
在庫は、国産材製品、外材製材品は10月の横ばいから11、12月はマイナスに、構造用集成材は10月のプラスから11月の横ばいを経て12月はマイナスに。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	25/10月	11月	12月
受注	12.5	12.5	△ 12.5
加工	50.0	25.0	0.0
受注残	12.5	6.3	△ 12.5

受注は、10、11月のプラスから12月はマイナスに。加工は10月の大きなプラスからプラス幅を縮小して12月は横ばいに。
受注残は10、11月のプラスが12月にはマイナスに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・仕入は国産柱（ヒノキ、スギ）の相場上がってきているのでタイミング見て仕入れする。外材は米マツ小割KDに注意して、集成材は先物及び当用買いとなる。消費は消費税の賭け込みが始まっているため増えていくがやはり職人不足でビルダーの動きが鈍い。在庫は全体的に平均した状況で持っているようである（多すぎず、少なすぎず）。仕入・消費に変化なし、（外材製材品に品質低下傾向が見受けられる）、在庫は冬場に向け減少傾向。・価格はピーク時から見て横ばい又は少々下落気味、不足感薄れてきた。加工は今月、来月がピーク、冬場に向け在庫調整。・国産材小割の価格上昇し、受注価格とのギャップ激しい。国産材構造用集成材の需要増え先行きの手配肝要。消費増税決定し駆け込み需要対応に追われる。冬将軍対応考慮しながら在庫管理の時期。・WW集成管柱、平角値下がりはじめ3,000円/m3ダウン、欧州WWKDの4Qオファー大幅値下り7,000～8,000円/m3ダウン、スギ集成材KDの入荷遅れ出始め、価格は1,000～2,000円/m3アップ。加工量は10月ピーク、以降少しづつ減となるが忙しさを続く。スギ集成材、スギKDの消費少しづつ増えつつある。WW集成管柱の消費減った。米マツKD小角は横ばい。11月以降の消費予想は少しづつ減少のため在庫量緩やかに減少に向かう。スギ関係の在庫は減らさず多めに確保したい。・国産材の需給バランスが崩れている。受注多い。外材は需給バランスにより値下げも出てきた。

(受注動向)

・見積り物件は増えている、おそらく年内は忙しい状況が続くと考える。冬場に向け減少傾向。・加工は今年いっぱい100%以上の状態、受注は冬場に向け減少に向かう。・受注増も、職人不足目立ち工期遅れに伴う納品待ち多い。月を追う毎に見積件数減少し始めているが、例年に比べ15～20%の増が続くと予想。消費増税駆け込みで来年1月までは大丈夫と予想。・相変わらず仕事量多いが物不足、人手不足で上棟日が伸びたりしている。